

[okazaki_136]

活動タイトル	省エネ講座
実施日	2021年12月2日
場所	日本医療大学保健医療学部（札幌市）
対象数	151名

一昨年までは、小グループを対象とした札幌市環境プラザのハウススタジオの見学と合わせた省エネ講座を行っていましたが、今年は、クラス全員を対象とした講座となりました。また、昨年は、Microsoft社Teamsを使ったオンライン講座（講師・学生ともオンライン）を行いましたが、今回は、事前のリハーサルで画面共有ができなかったことと、学生さんが、講堂での受講ということで、オンラインではなく、対面での講座となりました。タイトルは、「身近な生活の科学を学ぶ ～気候変動とわたしたちの暮らし～」としました。

講座で伝えた項目は、下記の通りです。

- 札幌市環境プラザのハウススタジオの見学で体験できることとして、照明を省エネモードにした場合の消費電力の違いを知らせました。
- ノーベル賞を受賞した真鍋淑郎さんに触れ、その受賞理由が地球温暖化の予測のための気候変動モデルの開発であることに触れ、地球温暖化の簡単なおさらいを行いました。
- 熱海で起きたような短時間で大量の雨が降ることが、近年増えていることや、そのような状況に備えておく「適応」の重要性も伝えました。
- 脱炭素化に向けた世界や、自治体・企業の取り組みが増えていることと、それらの果たす意義、これら温室効果ガス排出削減や吸収の取組を「緩和」と呼ぶことを伝えました。また、先日のCOP26で、「1.5度以内に抑える努力を！」ということが確認されたことを伝え、1.5度上昇と2度上昇での被害の違いにも触れました。
- 身近な取組の例として、電気の省エネのポイント、「設定などの使い方」「使う時間や回数をへらす」「購入の際の選び方」の3点について、クイズや簡単な消費電力量の計算を交えながら、伝えました。また、白熱電球・電球型蛍光灯・LED電球・ドライヤーの消費電力測定を行い、書画カメラで消費電力の違いを確認してもらいました。
- 「人がそれほど合理的に行動するわけではない」ということに触れ、近年注目されている「ナッジ」などの行動デザインの事例を紹介するとともに、その観点を利用したスラッジもあるので、注意するように呼びかけました。

配付資料：PPT資料を、学校で印刷していただき、各学生に配布。

(感想・反省点)

- 少しでも一方通行ではないものになるように、学生さんにも、挙手で答えてもらうなど、工夫しましたが、大講堂で、皆さん後ろに座るため、反応がよく見えなかったのは、ちょっと残念でした。
- 初めて聞くこと、参考になったことがあったという学生さんも多く、少しは、お役に立てて良かったと思えました。また、ナッジの話が印象に残ったという学生さんが多かったです。
- スラッジについて、言葉だけしか紹介しなかったなので、具体例を紹介すれば良かったと思えました。

- ・ 環境プラザの見学の際には、簡単なナッジを考えてみるというワークと共有も行いましたが、大人数であったこともあり、今回は実施できませんでした。次年度以降、少人数のグループに戻った際には、もっと体験や実践を加えた取り組みを行えたら、と思います。

実施写真等

